

パラメータコントロール センタ

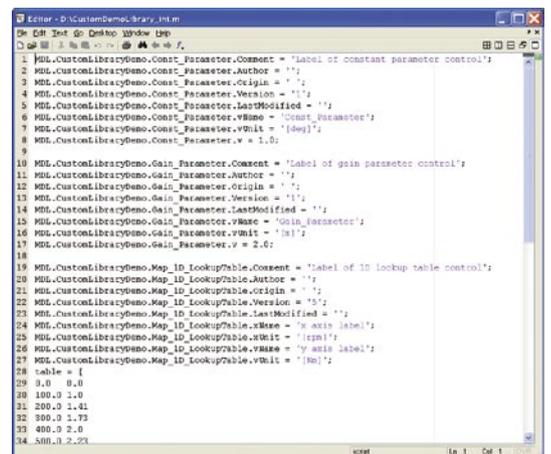
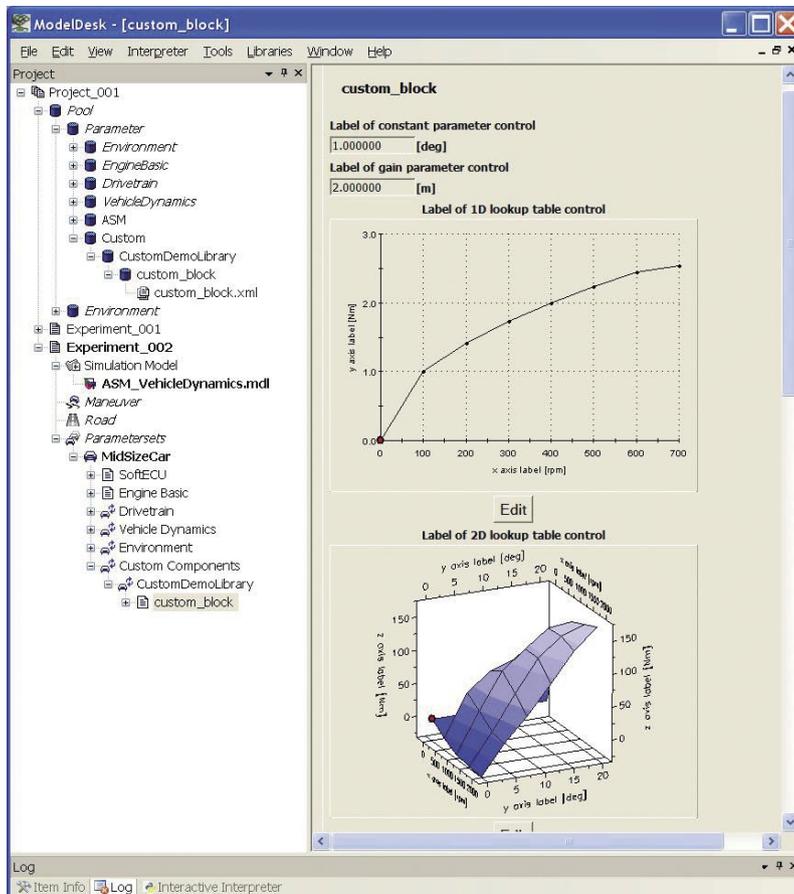
- ▶ カスタムモデルのグラフィカルなパラメータ設定
- ▶ 集中パラメータ管理
- ▶ 効率的なパラメータ管理

ASM (Automotive Simulation Models) の特長は、オープンな設計思想です。ユーザはモデルを Simulink ブロックレベルまで詳細化して検討し、さらにそのモデルに対して修正や独自モデルの追加も行うことができます。このオープンで柔軟なアプローチは、パラメータ設定ソフトウェア ModelDesk のバージョン 2.0 によってさらに便利で効率的になりました。ModelDesk では、ユーザが修正または追加したモデルを検出し、それに対してグラフィカルなパラメータ設定を提供するようになりました。

カスタムライブラリのユーザインターフェース

ModelDesk でカスタムモデルを処理するために、モデル化には若干の簡易な ASM 設計ルールに準拠する必要があります。そのルールとは、ModelDesk で変数をパラメータ化する必要がある場合に、その変数をマスクされた Simulink サブシステムに格納し、マスクパラメータ経由でパラメータ設定が必要があるというものです。マスクされたサブシステムは、Simulink ライブラリに保存されます。パラメータには直感的な名前を、ユーザインターフェースで表示する単位とともに割

▼ ModelDesk によって作成されたカスタムパラメータページ



▲ 名前、単位、初期値を持つマスクされた変数としてパラメータを宣言。

り当てることができます。ModelDesk では、スカラー、ベクトル、およびテーブルベースのパラメータをサポートします。新しく作成された Simulink ライブラリは、ModelDesk に登録することができます。ModelDesk に読み込まれたモデルに、登録されたライブラリのコンポーネントが含まれる場合、ライブラリからパラメータが画面に表示されます。各サブシステムのパラメータに対して、独立したパラメータページが作成されます。

集中パラメータ管理

カスタムモデルを含む Experiment ファイルが読み込まれると、ModelDesk はそれらを標準 ASM パラメータと同様に表示します。ユーザは Model Navigator でモデルコンポーネントを選択し、自動的に生成されたパラメータページ上でグラフィカルにパラメータ設定することができます。ModelDesk にユーザ固有のモデルのサポートが追加されたことで、ModelDesk ですべての試験データとすべてのパラメータセットを管理できるようになりました。